

教材・支援機器活用実践事例

【活動を通してコミュニケーションを豊かにする学習支援】

	実施年度	平成28年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	「魚釣りゲームをしよう」
	授業における教師のねらい	○相手に基本的な要求を伝えられるようにする。 ○身近な色を識別できるようにする。
	授業における子どもの目標	○話を聞いてゲームをし、相手にカードを渡したり、困ったときに伝えたりすることができる。 ○赤、青、黄、緑、白、黒の絵カードを見分けることができる。
子どもについて	学校・学級・学年	県立養護学校 小学部 4年
	対象の障がい	知的障がい
	授業の形態	個別学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	発声はあるものの言葉で伝えることが困難なため、身振りや指さして意思表示する機会をもつ必要がある。 色のマッチングはできるが、文字を見たり言葉を聞いたりして色を識別することは難しい。ひらがなが少しずつ分かるようになってきたので文字や言葉と結びつけていきたい。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	「魚釣りゲーム」(数・色) 
	活用のねらい	○魚釣りゲームは本人が大好きな遊びである。体験的な活動を取り入れることで意欲を高め、学習意欲を継続させる。 ○ゲームでのやりとりを通して、コミュニケーション能力を高める。 ○活動を繰り返しながら、文字を見たり言葉を聞いたりして徐々に多くの色を識別できるようにする。
授業における支援・教材の配慮	○毎時間、本人の状態を考慮して課題設定をすることで、毎回本人が「できた」という経験と自信をもてるようにする。 ○遊びながら楽しい雰囲気づくりをし、十分教師とやりとりできるようにする。 ○カードを釣るだけでなく、カードを竿からははずす、カードを並べるなどの一連の動作が一人でできるようにする。	
子どもの変容や評価	○今まで行っていたような、数字が書いてあるだけのカードを並べたり、電車に数字が書いてあるものを連結させたりするだけではなく、魚釣りというゲームの要素が加わったので、とても意欲的に活動していた。 ○やり方が分かると抵抗なく活動に入れるので、数の順序や量、色の識別など様々な活動に応用できた。 ○「あか」「あお」「きいろ」の言葉を聞いて色の識別はできた。今後は、文字を読んで識別することができるように、本人のペースに合わせて学習を進めていきたい。	